

様式第5号別紙1

事業実施報告書

事業名 『シェアハウスに設置した高齢者の困りごと相談窓口』から地域の課題を考える事業

1 事業の目的

最近では空き家の増加や高齢者の住まい先を借りられないといった問題があり、空き家は長い間放置され地域住民の安心安全な生活が脅かされている。また、高齢者は身体機能の低下にて孤独死などのリスクから賃貸住宅への住み替えが難しい現状がある。高齢者は近隣住民とのつながりが希薄になり、自身の困りごとについても相談する機会が少なくなってきた。

そのような中、相互見守りのあるシェアハウスという住まいの機能があることを知ってもらい、シェアハウス内に高齢者の困りごと相談窓口を作り、大家さん、居住者、介護福祉職及び地域住民で、高齢の方の住まい・生活の困りごとについて一緒に考える機会を設け、地域の課題を考えるきっかけをつくりたい。

2 事業内容

(1) 事業の概要

- ・集客イベントを月に一回実施して、地域と入居者の交流を図り、それに合わせて相談窓口を設けアンケートにて地域の困りごとを考える活動を目指す。

・集客イベントとして
シェアハウスにて5人/月×6か月



●セミナー
・介護保険の申請について
・介護施設とお金について
・栄養相談について
・経済について
・空き家の活用について

●教室
・手芸教室
・料理教室
・体操教室
・男の洗濯教室
・男の買い物教室

(2) 事業の流れ

イベントは 実施 6回 中止 1回 延べ参加人数 86人

- ① 7/10(土)14時～16時シェアハウス結 ブレスレット作りワークショップ
中高年齢層 16人【動画あり】<https://youtu.be/KvPemVqtWa0>



説明：近隣住民の方を講師に招いて趣味でやられているブレスレット作りのワークショップを実施した。

受講者より：コロナ禍において人に会うこともはばかられる中、久しぶりに人と会って顔を見ながらお話しすることが出来てすごく安心した。居場所があることがこんなにも大切なのかと考える機会になった。

② 8月 コロナ自粛にてパッチワーク作りのワークショップは中止

説明：シェアハウス入居者の方がパッチワーク講師として予定していたが介護の専門職に携わっていたため、蔓延防止によりワークショップの開催を断念する結果となった。

③ 9/11(土)14時～16時 シェアハウス結 エンディングノートワークショップ
中高年齢層 12人



説明：(社) 終活協議会の方を講師に招いて、エンディングノートの書き方についてセミナーを実施した。

④ 10/9(土)14時～16時 シェアハウス結 市民後見セミナー
中高年齢層 12人



説明：市民後見団体春日部支部長を講師に招き、成年後見制度とこれから 2025 年問題で団塊の世代が後期高齢者になることによる認知症などで権利擁護の問題を見据えた市民後見制度についてセミナーを実施した。

⑤ 11/13(土)14時～16時 シェアハウス結 空き家と高齢者賃貸事情のセミナー
中高年齢層 17人



【空き家の現状と再生事例】

ビフォー

アフター



説明：空き家と現状と高齢者をとりまく賃貸の実情を話した。

⑥ 12/11(土)14時～16時 シェアハウス結 料理教室ワークショップ
中高年齢層 15人



説明：みんなで体験型料理教室にて中華まんを作り 美味しくいただいた。

⑦12/18(土)14時～16時 シェアハウス結 空き家活用事例 シェアハウス
中高年齢層 14人



⑧アンケート実施（周辺住宅・高齢者層団地部）困り事解決に向けた活動



説明：シェアハウス近隣住宅街や高齢者層の多い武里団地にてアンケートを実施した。
地域のボランティアとして枝葉分別による堆肥作りの活動に参加した。

(3) 連携・協力機関

NPO 法人 市民後見センター埼玉、社団法人 終活協議会
訪問介護事業所こたか他、コミュニティーcafe タマムシの会
café TETOTE、居宅介護事業所ナーシングケア他、

3 成果及び今後の展開

高齢者の独居の方が多い中、コロナによる自粛でご自宅から一歩も外へ出づに過ごす日々に身体機能の著しい低下、人とのつながりがなくなり精神的にも落ち込んでいる人も多くみられ、コロナの感染リスクとは別の側面から、さまざまな問題が起きていると感じた。このような中でも地域住民の方々の居場所づくりの維持のため定期的に集まれるようなイベントを地道に続けていくことが顔の見える関係づくりで大切であると感じました。

今後、地域の抱えている課題と一緒に考えていきたいと思います。